

点検調査から見えてきた課題等について

広域通信制高校に関するアドバイザー

時乗 洋昭

これまでの点検調査で見られた事例

(学校)

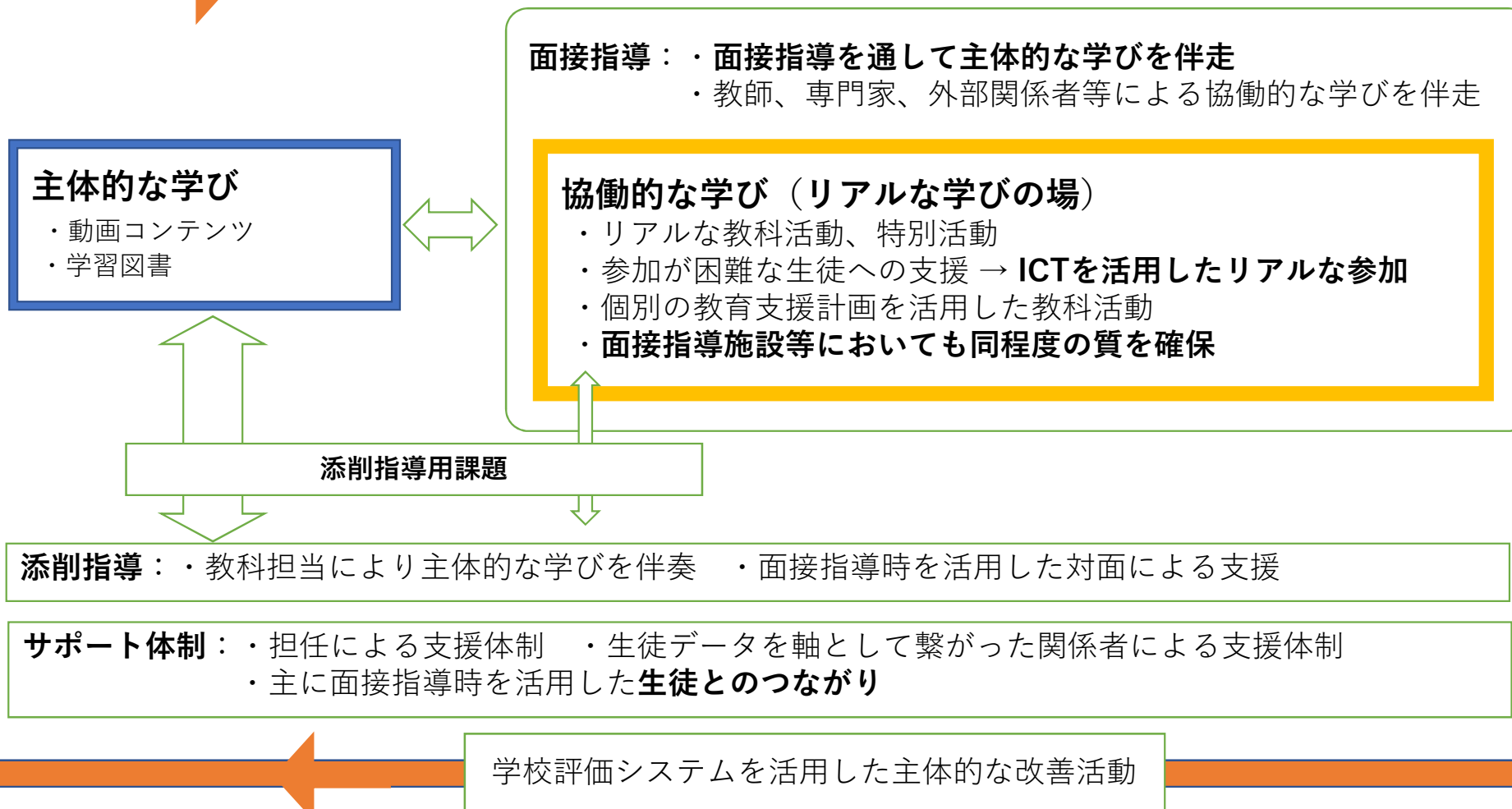
単位を修得させ卒業させることのみを目指す → 生徒の学力向上を軽視

- ① 添削指導は規定回数課題を完成させることを目指す
→ 質・量ともに低下（1回分がA4 1～2枚、ほぼ穴埋め）
- ② 面接指導は規定時間を満たすことと添削課題を教える時間となる
→ 時数を満たせば内容は問わない（総合的な学習の時間など）
→ 添削課題を教材とする（面接指導で完成させる）
→ 自習形式により添削課題に取り組む時間を面接指導扱いとする（面接指導施設等が多い）
（教員は質問があれば答える）
→ 同一活動を生徒により教科活動や特別活動として扱う
→ 添削課題を扱う場なので机と椅子があればよいと考える
→ 面接指導施設、連携協力施設でこの傾向が強い
→ 視聴したという事実をもって減免する（成果を問わない）
- ③ 生徒人一人に寄り添った支援体制が不十分
→ 養護教諭が非常勤であり必要な時に必要な支援ができていない
→ 担任等が非常勤であるり科目登録等の手続きをしない生徒への指導がなされていない

(所轄庁)

他県に多くの面接指導施設、連携協力施設を持つ場合は実態把握が非常に困難

対面による指導を重視した教育活動に取り組む「令和の日本型通信制高校」のイメージ



主にICT（ネット）を活用した教育に取り組む「令和の日本型通信制高校」のイメージ

- 面接指導：**
- ・ 視聴報告書等により主体的な学びを伴奏
 - ・ 教師、専門家、外部関係者等による協働的な学びを伴走

主体的な学び

- ・ 動画コンテンツ
- ・ オンラインコンテンツ
- ・ 視聴代替により 6 割分



協働的な学び（リアルな学びの場）

- ・ リアルな教科活動、特別活動
- ・ チームによる指導体制
- ・ 参加が困難な生徒への支援 → ICTを活用したリアルな参加
- ・ 視聴代替により 4 割分
- ・ 面接指導施設等においても同程度の質を確保

添削指導用課題

- 添削指導：**
- ・ ICTによるコミュニケーション
 - ・ 主体的な学びを伴奏
 - ・ 教科チームによる指導体制

- サポート体制：**
- ・ 担任チームによる支援体制
 - ・ 生徒データを軸として繋がった関係者による支援体制
 - ・ 様々なコミュニケーションツール（特にICT）を活用した**生徒とのつながり**

学校評価システムを活用した主体的な改善活動

所轄庁：学校評価システムを活用した実態把握と指導・助言

通信制高校の「強み」を生かす
リアルの質向上が重要